

わたしの「性」とからだの主人公は、わたし自身

「性の商品化」は、女性の「自分のからだを大切に思う心」「自分を好きという気持ち」「人間としてのプライド」を傷つけるものです。なぜなら、人間にとって「性」は、「生」と同じように基本的な人権であり、かけがえのないものだからです。

1994年カイロで開かれた「国際人口・開発会議」では、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）」という考え方が179カ国に承認されました。リプロダクティブ・ヘルスは、生涯を通じて個人、特に妊娠・出産という機能を持つためからだに様々な変化がある女性の健康の自己決定権を保障する考え方で、リプロダクティブ・ライツはそれを基本的人権として保障するというものです。

つまり、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは「自分の性やからだを大切にしよう」「自分の性やからだを大切にするのは私の権利なのだ」ということです。女性の性を人格とは切り離してモノあつかいする「性の商品化」は、この考え方に反し、より自分らしく生きる権利を侵害するものといえます。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツで言われている性に関する権利とは

